

216) ^{おもいで} すぎし追憶

古い映画を見にゆこうかと 彼に誘われ見た「卒業」は
ラストシーンが感動的で なぜか涙がとまらなかった
しばらく席を立つことができず 彼につかまりやっと歩いた
それから3年大学を出て いまふりかえるすぎし^{おもいで}追憶

学園祭の季節になると わたしはいつも生き生きしてた
演奏会のポスターづくり 入場券を売って歩いた
徹夜のこと多かつたけど 彼がいたから辛くなかった
まだ若かつた学び舎の日々 すべてのことが新鮮だった

卒業するとき彼と二人で 渋谷あたりでお酒を飲んだ
いわば私の卒業記念で 彼から愛を告白された
愛する人ではあつたけれども 就職先も決まっていたし
仕事に夢を持っていたから 特に約束しないで過ぎた

しばらく毎週会っていたけど しいだいに仕事に追われ
今では年に一度くらいの すっかりさめた義理チョコデート
そんな彼から電話があつて 来年5月に結婚すると
驚くことじゃなかつたけれど 過ぎた季節の長さ感じた

あのころに見た映画のような ラストシーンはなかつたけれど
いま思い出す彼のやさしさ もうかえらない恋の^{おもいで}追憶
後悔なんかしていないけど 結婚してもいい人だった
まだ若かつた学び舎の日々 すべてのことは過ぎし^{おもいで}追憶